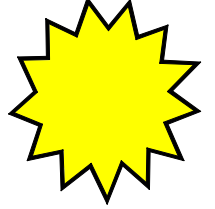


岸田政権による大軍拡で



京都が報復攻撃の対象に！

今こそ首長と議会は、大軍拡反対の立場に

舞鶴のイージス艦に トマホークミサイル配備



海上自衛隊HPより

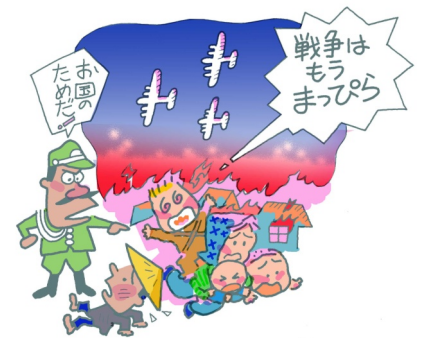
岸田政権は、安保3文書で敵基地攻撃能力の保有を明記、アメリカから射程距離が1000kmを超えるトマホークミサイルを400発購入(2113億円)することを決定しました。現在、海上自衛隊はイージス艦8隻を保有していますが、このイージス艦にトマホークミサイルを搭載します。海上自衛隊舞鶴基地には、2隻のイージス艦が配備されており、このイージス艦にもトマホークミサイルが搭載されます。また、ミサイルの保管も行われるわけで、まさに、敵基地攻撃の出撃基地になると同時に、相手国からの報復攻撃の対象になります。

岸田自公政権がすすめる5年で43兆円の大軍拡。京都の自衛隊基地も大きく変貌しようとしています。このままでは、京都が出撃基地化して報復攻撃の対象になり住民のいのちが危険に晒されます。

今こそ、自治体の首長と議会は、大軍拡にきっぱり反対の立場に立つべきです。

核攻撃にも耐える司令部機能の地下化 市民の安全は、ほったらかし

これを裏付けるように岸田政権は、指揮通信機能を「強靱化」するとして、核攻撃や化学兵器等による攻撃にも耐えうるよう、舞鶴基地の総監部の司令部機能を「地下化」する予算も決定し工事がすすめられようとしています。周辺住民のいのちや安全をどう考えているのでしょうか。



祝園弾薬庫（精華町）が 長距離ミサイルの保管場所に



(住宅地に隣接する祝園弾薬庫)

「強靱化」計画には、陸上自衛隊祝園分屯地(精華町等4自治体に隣接)の弾薬庫に長射程ミサイルが保管できるよう弾薬庫を大型に拡張する工事も含まれています。弾頭を1000キロ~3000キロ飛翔させるロケット燃料も一体に保管することになります。

また、ミサイル部隊は機動展開することになるので、祝園からのミサイルの出入りが頻繁になることが懸念されます。さらに反撃能力の即応性からすれば、敷地内からミサイルを発射することも十分考えられます。

祝園弾薬庫や地域全体が、相手国からの攻撃に晒される危険とともに、震災や火災、移動・運搬中の事故や攻撃など住民のいのちと安全が守られないこととなります。